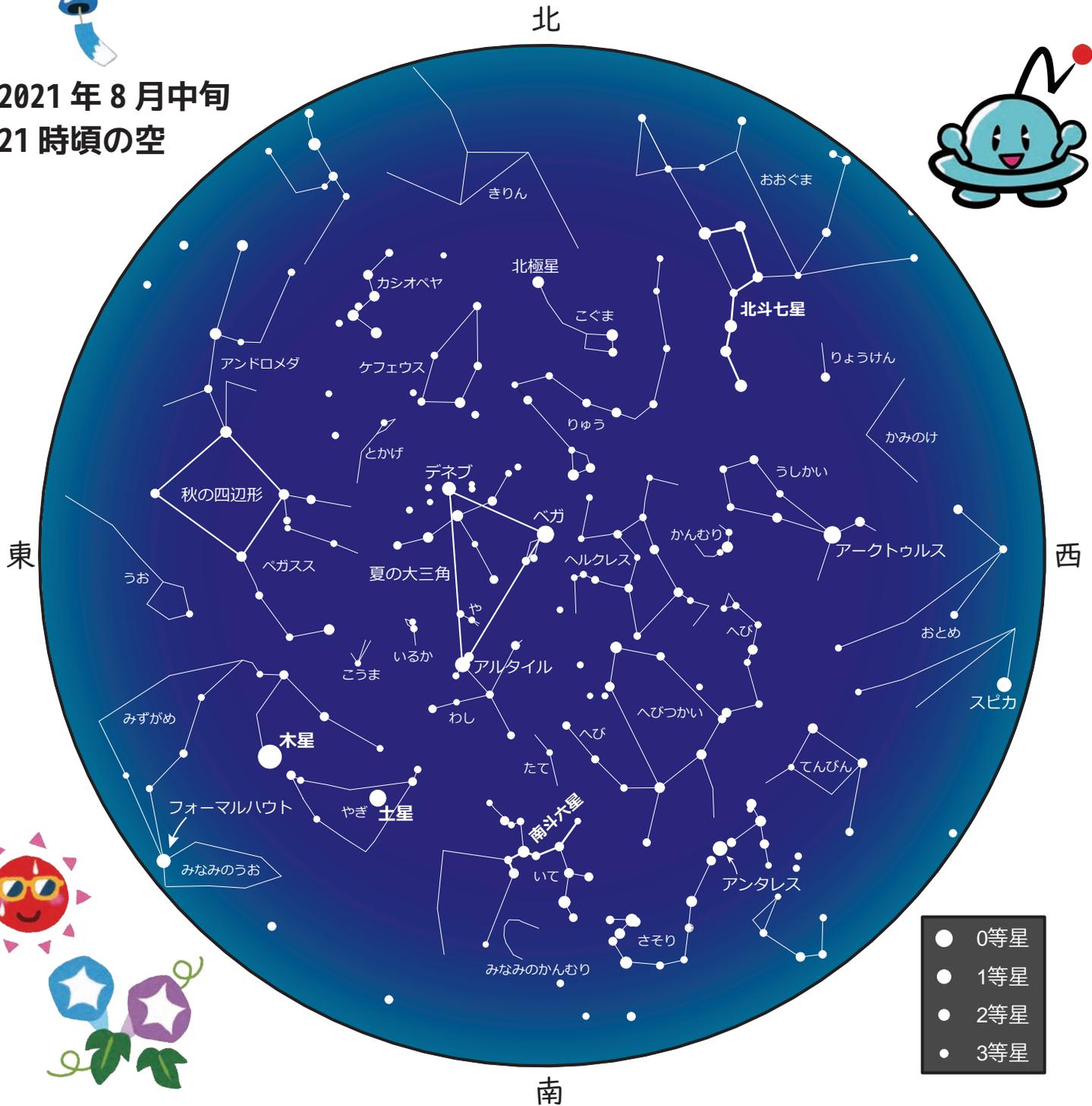


阿南市科学センター

8月の星空案内



2021年8月中旬
21時頃の空



暑い夏の日々、夜空を見上げれば頭上にはベガ（こと座）、アルタイル（わし座）、デネブ（はくちょう座）をつないでできる**夏の大三角**が見えています。南よりの低い空には赤色の1等星を従える**さそり座**が見え、その隣となる東側には**いて座**が位置しています。いて座には北斗七星とよく似た星の並び「**南斗六星**」があり、中国の伝承において北斗は人間の死をつかさどる仙人、南斗は人間の生をつかさどる仙人と言われています。北斗と南斗は人間が生まれたとき、二人で相談して人間たちの寿命を決めていた、そんな逸話が残されています。なお南から東寄りの空には**土星**や**木星**の輝きが目につくでしょう。当館の四国最大の望遠鏡で観察すれば、土星の環や木星の縞模様を鮮明に楽しむことができます。

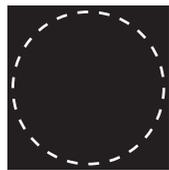
天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

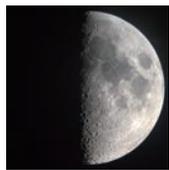
電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

8月の月の満ち欠けと惑星について



新月
8日



上弦
16日



満月
22日



下弦
30日

天体観望会で 月が見えるおすすめ日時は？



8/14(土): 19時, 20時の回



8/21(土): 20時, 21時の回

水星: 8月下旬頃、西のごく低空で見える。【-0.2等】

金星: 日没後、宵の明星として西の低空で見える【約-4.0等】。

火星: 日没後、西のごく低空に位置するが観察は難しい。【約1.8等】

木星: 前半夜からほぼ一晩中見える(8/20衝)。【約-2.9等】

土星: 夜半前からほぼ一晩中見える(8/2衝)。【約0.2等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ(水星のみ8/25頃の明るさ)。



図1: 科学センターの望遠鏡で撮影した土星と木星。
(D=20cm, F10 + ASI290MC + x3 barlow, by K. Imamura)

今月のトピックやおすすめの観察対象

【ペルセウス座流星群が好条件！】

2021年のペルセウス座流星群は8月13日午前4時頃が出現のピークだと言われています(観察は12日の晩に行くと良い)。今年は月明かりの影響がほとんど無く、最高の条件で流星観察が行えます。空の暗い場所であれば、ピーク時は1時間に数十個もの流星が見られるでしょう。

流星群は放射点と呼ばれる位置から、四方八方に流星が見られる現象ですが、流星がいつどこに現れるかは誰にもわかりません。放射点から離れた場所にも現れるので、観察をする場合は放射点にとらわれず、なるべく空の開けた場所で、空全体を見渡すことが観察のポイントです。

ちなみに、ペルセウス座流星群は古くからイギリスなどヨーロッパ圏において「セントローレンスの涙」という愛称で呼ばれていました。ローレンス(ラウレンティウス)という人物は3世紀頃、キリスト教がまだ強く禁止されていた時代に、キリスト教を布教したため、当時ローマ皇帝によって火炙りにの刑に処され命を落としました。処刑された日がちょうどペルセウス座流星群がたくさん見られた日に近く、天も悲しみ涙を流すように流星が見られたと云い伝えられています。

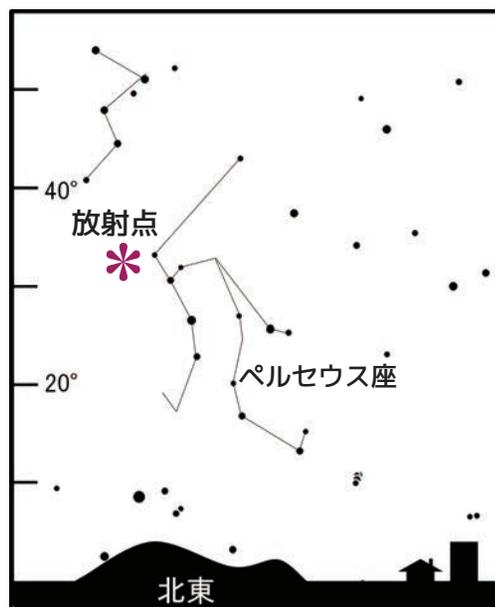


図2: ペルセウス座と放射点の位置
(8月13日0時の夜空)

【M16 わし星雲とM17 オメガ星雲】

夏の天の川の中には数多くの美しい星雲が分布しています。今回紹介するM16 わし星雲(へび座)とM17 オメガ星雲(いて座)は、科学センターの望遠鏡で観察すると、文字通り白っぽく雲のように見え、写真に撮ると赤い色をした星雲であることがわかります(図3)。このような赤い星雲は主に水素ガスで構成されており、星雲内にある高温の星の影響を受け、水素ガスそのものが発光しています。赤い星雲がある場所は、電離水素領域(HII領域)とも呼ばれ、主に天の川(銀河面)に沿って分布する特徴があります。なおM16やM17は新しい星が誕生する現場としても知られており、多くの天文学者が注目し研究を行っています。



図3: 左がM16 わし星雲, 右がM17 オメガ星雲。
(D=13cm, F4.2 + ESO kiss X7i 改造機, by K. Imamura)